

民権連通信

民主主義と人権を守る府民連合（民権連）

〒556-0024 大阪市浪速区塩草 2-2-31

TEL (06) 6568-2031 faX (06)6568-2047

民権連第12回定期大会開かれる（5／31）



5月31日なにわ会館において民権連第12回定期大会が開かれました。冒頭、谷口正暁委員長は、大阪市の廃止・解体の是非を問う住民投票が否決され大阪市の存続が決まったこと、安倍政権の「戦争できる国づくり」ストップのたたかい、部落問題がほぼ解決に至った民権連の運動についてふれ、平和で人間らしい暮らしができる地域社会の実現をめざし頑張ろうと呼びかけました。

北脇輝夫書記長による総括と運動方針の提案、藤原暁代副委員長による会計報告と予算案、府連事務所所有権移転の提案のあと、討論に移りました。

浪速支部の藤原善雄代議員は、「住民投票への大阪府下はじめ近畿一円、全国からの支援に感謝をのべるとともに、秋に予定されている府知事選挙、大阪市長選挙に勝利して維新を何としても潰したい。そして少しでも良い大阪市をつくっていききたい」とのべました。長瀬支部の森本啓樹代議員は、「皆保育、公営住宅の位置づけ、フィールドワーク、事務所問題など、遅れていた東大阪市の同和行政の見直しも進み始めた。青少年運動広場の開放など、まだ残っている課題もあるが、その解決に取り組んでいきたい」とのべました。大阪市協の柏木功代議員は、「今年の府教委交渉で、『いま被差別部落ってない』『誰が同和地区の人なのか誰も説明できない』『（この記述は）事実誤認』の3点を認めさせた。4月上旬には府教育センターのホームページから人権教育教材のすべてが削除された。しかし今年度採択される教科書の記述が後退している。批判を強めていきたい」とのべました。

運動方針案、予算案、新役員などを満場一致で採択。大会終了後、はじめての懇親会を開き大いに盛り上がりました。

（2015年度新役員）

執行委員長	谷口 正暁
副委員長	明石 輝久
同	石田 清美
同	工藤 一郎
同	坂東 勝
同	藤原 暁代
書記長	北脇 輝夫
書記次長	亀谷 義富
同	藤本 博
執行委員	大阪谷敏兼
同	柏木 功
同	工藤千代美
同	八田 努
同	森本 啓樹
同	山本 善信

「映画とお話のつどい」開く（寝屋川市立いきいき文化センター）

6月6日（土）午後、寝屋川市立いきいき文化センターで「映画とお話のつどい」が開かれました（新婦人月桃班 東部まちづくりの会共催）。初めての企画にもかかわらず参加者は32名。映画「標的の村」は沖縄でのオスプレイ配備と普天間基地の辺野古移設反対運動を追った琉球朝日放送製作のドキュメンタリー映画。全国で上映運動が行われている話題の映画。お話「戦後70年 今伝えたいこと」は、今年の4月、NPT・ニューヨーク行動に参加された松山五郎さん（85歳）のお話を聞きました。松山さんは自らの被爆体験をふりかえり、核兵器と人類は共存できない、長兄が戦争で死んだのは無駄死にであったと語り、最後に憲法9条の条文を読み上げながら、憲法は権力者が守るべきもの、安倍政権の進める「戦争できる国づくり」を厳しく批判しました。



フィールドワークは実施しない（東大阪市教育委員会）

5月28日東大阪市教育委員会人権教育室は、今年度のフィールドワークは行わないと回答しました。この事業は東大阪市教委が、新任教職員の研修として長年にわたって実施してきたもので、民権連は中止を求めてきました。5月1日に行った市教委との話し合いでは、「前年度からの引き継ぎはしている」「2年前からの経緯も承知している」と答えたものの中止を明言しませんでした。参加者からは、「特定の地域を見せ物にして、こんなひどい差別はない」「どこが人権なんや」「地域の人々の思いを考えてほしい」など厳しい批判が出され、次回までにどうするのか明確に答えるよう要求しました。5月28日の話し合いでようやく、「研修のあり方を考えた上でフィールドワークは今年度実施しない」と回答したものです。

いわゆる「差別文書」問題を考える市民学習会

とき 6月18日（木）午後7時

ところ プリズムホール4階 第1会議室

プログラム ○いわゆる「差別文書」問題をどう考えるのか

お話＝①谷口 正暁さん（民権連委員長）

②八尾同和行政弁護団

○自由討論

主催＝八尾市同和終結市民会議

